

プロメリア・ギフ

バラ、プロメリア生産
(岐阜県海津市)

プロメリア・ギフ様は木曽川、長良川、揖斐川の三大河川が流れる日本でも有数の水郷地帯である岐阜県海津市でポット栽培のバラとプロメリアを生産されています。ポット栽培のバラは日本で20%のシェアを誇り、130万ポットものバラを生産されている大規模生産者です。また、環境に配慮した生産に取り組まれ、MPS-ABC^{*}の認証も受けられています。今回はバラでのFFC活用方法や効果について伺いました。

*MPS-ABC…オランダが発祥の、世界的に権威のある花卉の環境負荷低減認証プログラム。生産過程での農薬、肥料、エネルギーなどの環境負荷低減への取り組みをA・B・Cのランクで認証。



使用する水はすべて
FFCウォーター



業務用元始活水器V65型を設置（2008年7月設置）

社長の声



プロメリア・ギフ
代表取締役
細川 清隆 様

FFC元始活水器を取り付けて、まず、病害が抑えられ結果的に薬剤が軽減できたことに対して効果を感じています。今まで病害発生対策の防除をしても防げなかった病気が、今までどおりの対策で抑えられていることにはびっくりしています。また、バラの生育が活発になっていることが目に見えてわかります。特に剪定後などでは、とても元気なわき芽が何本も出てきます。

取材メモ

大規模にバラを生産されているプロメリア・ギフ様ですが、FFCの活用により、生長促進のみならず一定の品質のものが作れるようになります。今後は作業のさらなる効率化が検討できるとのことです。このように、作業の効率化により経済的なメリットを生み出していくことに対してもFFCテクノロジーの可能性があると感じました。今後も、様々な視点でFFC活用現場にお伺いしたいと思います。
(取材:代々)

バラのポット苗の生産から出荷までの流れ

挿し穂



バラの木から挿し穂用の穂を切り取り、鉢に挿し木を行います。

挿し穂をビニールで被覆



挿し穂後は水をたっぷり与え、乾燥を防ぐためにビニールで被覆します。すみずみまでFFCの情報がいきわたります。

育苗



FFCの効果で、従来よりも短期間でくすくと生長しています。

穂木取り



ある程度生長してたら、挿し穂用の穂木取りを行います。

出荷前



同じスピードで生長しています。

出荷



きれいに仕立て、出荷します。

FFC活用による効果

FFC活用による効果

挿し穂ロスの軽減
挿し穂を行う際に、今までどうしてもロスが1000本で2~5本あったものが、FFC導入後は1000本で0.5~1本に減少しました。

発根スピードアップ



短期間で根が活発に生育！

根の生育が促進

出荷前の根量は
FFC未使用の時より
30%アップ！



通常、挿し穂後13日目ぐらいで鉢の周りに根が0.5~1cmほど出てくる程度ですが、この時点で白く太い根が5cm以上も出ています。26日目には、鉢全体に根がいきわたっており、根の発根が促進されているのがわかります。

管理面でも効率的

- 根張りが良いので
- 土くずれしにくい
- 振動などに強い
- 植物が弱りにくい

作業の効率化

わき芽が活発に



挿し穂を採った後、親木からわき芽が2本以上出ることが必要ですが、今ではすべて2本以上出るようになりました。なかには4本以上出るものもあります。

挿し穂が多く採れる

挿し穂 1.4~1.5本／親木1本
1ポット5本挿しなので、1.5ポット分採れる

1.7~1.8本／親木1本採れるように

剪定が2~3日早く

ある程度生長してから挿し穂を探るために剪定をしますが、根の生育が良いからか生育が早く、剪定も2~3日早くなりました。

薬剤6割カット！



毎年11月中旬~2月頃までビシウム菌（土壤病害菌）が発生し、この病気のため1~1.5万鉢が枯れてしまっていたのが、今年は80%減少したそうです！また、ビシウム菌だけでなく、スリップス、ウドンコ病、ダニ、ベト病、ハイカビ病なども減少しており、殺菌剤だけでも30~40万円かかっていた費用が大幅にカットされました。

A品率が向上！

今まで、A品率が65%程度だった品種が、今年は75%近くになるだろうと期待されています。A品率が90%前後になると出荷の機械化が可能になり、作業効率のアップに繋がるそうです。

作業の効率化

出荷が2~3日早く

生長が良いため、出荷が3~4日早くなり、より効率的な生産が可能になりました。